

広域地方計画区域の現状等について

東北圏：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県

首都圏：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
山梨県

北陸圏：富山県、石川県、福井県

中部圏：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国圏：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国圏：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州圏：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

東北圏

(1) 人口・経済規模等

東北圏 7 県は、人口約 1,210 万人、域内総生産約 41 兆円と欧州の中規模諸国（ベルギー、スウェーデン、スイス等）と同程度の人口・経済規模を有し、人口 30 万人以上の都市は仙台市以下 6 市ある。

* 都市：仙台市(1,025)、新潟市(785)、いわき市(354)、郡山市(339)、秋田市(333)、青森市(312)
新潟市は 2007.4.1 に政令指定都市に移行。

国際定期便が就航する空港、一定規模の国際海上コンテナを取扱う港湾もそれぞれ複数存在している。

* 空港：仙台、新潟、秋田、福島

* 港湾：新潟、仙台塩釜、秋田、八戸

人流・物流・通信・居住地移動・進学行動・企業活動といった社会経済活動において結びつきがみられ、一つのまとまりを形成している。また、周辺道県も含めた道県境を超える広域連携の取組実績も多くみられる。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 南北及び東西方向の交通基盤整備の進展と IT を活用した二地域居住等の多様で豊かなライフスタイルを享受できる新しい生活空間形成の可能性
- ・ 中国（特に東北 3 省）及び極東ロシアに近い地理的優位性を有し、日本海側と太平洋側それぞれに物流拠点を持つ
- ・ 豊かな水、肥沃な土地、日本海と太平洋側の南北に長い海岸線を活用した我が国の食料供給基地
- ・ 原子力発電や火力発電などの基幹電源と風力・バイオマスなどの新エネルギーによる、多様な供給源を持つ我が国のエネルギー基地
- ・ 四季の変化に富んだ豊かな自然、数多くの温泉、個性あふれる祭り、民俗芸能等の多彩な観光資源
- ・ 電子部品・デバイス、情報通信機器等の先端産業の集積と広域的な産学官連携の取組実績を活かした、自動車産業等の新たな産業集積と国際的な研究開発拠点形成の可能性

(参考)

「 21 世紀のグランドデザイン」第 3 部の地域別記述における副題

- 21 世紀に向け調和のとれた新しいライフスタイルが展開されるフロンティア -

「東北開発促進計画（第五次）」における副題

- 21 世紀を先導する自然共存型社会をめざして -

首都圏

(1) 人口・経済規模等

首都圏 8 都県は、人口約 4,240 万人、域内総生産約 183 兆円と G 8 諸国中のイギリス、フランスに匹敵する経済規模を有し、国会等政治・行政の中核機能の存する東京特別区に加え、政令指定都市を含む多数の人口 30 万人以上の都市がある。

北関東地域 3 県に限ってみても、人口約 700 万人、域内総生産約 27 兆円と欧州の中規模諸国とほぼ同程度の人口・経済規模であり、複数の人口 30 万人以上の都市を抱えるなど相当の集積を有している。

* 都市：東京 23 区、横浜市(3,580)、川崎市(1,327)、さいたま市(1,176)、千葉市(924)、相模原市(629)、船橋市(570)、八王子市(560)、川口市(480)、松戸市(473)、市川市(467)、宇都宮市(458)、横須賀市(426)、町田市(406)、藤沢市(396)、柏市(381)、所沢市(336)、川越市(334)、前橋市(319)、越谷市(316)

国際定期便が就航する 2 つの拠点空港と、国際海上コンテナを取扱う複数の港湾を有することをはじめ、都市・産業・学術・情報・中枢管理の面での巨大な集積や、我が国随一の国際交流機能を有している。

* 空港：成田、羽田

* 港湾：東京、横浜、千葉

社会経済活動面では、全国土ないし日本列島の東半分への東京の影響力が極めて大きい中で、この 8 都県がとりわけ東京との強い結びつきがみられる。その反面、北関東地域における相互の繋がりは相対的に弱い状況にある。ただし、近年になって、北関東地域において周辺県も含めた県境を超える広域連携の取組が行われている。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 広大な関東平野を中心として、世界有数の巨大都市圏を形成。巨大な市場を有し、経済、社会、文化等の主要な活動の場。先端的・個性的活動が活発
- ・ 首都圏として、世界と伍する機能が集積。今後も国際的な競争の中で重要な役割を果たしていく可能性
- ・ 東京圏及び北関東・内陸西部地域において産業集積を有する拠点都市、さらに周辺の農業的・自然的環境が残されている地域など、多様性に富む
- ・ 広域交通ネットワークの整備の進捗に伴い、特に北関東及び周辺地域は、アジアを見据えた新たなブロック間の連携・交流の拠点としての発展の可能性
- ・ 二地域居住や地域活動への積極的参加など全国を舞台に新たなライフスタイルへの志向がある多様な知識・経験を持つ団塊世代の豊富な人財を有する

(参考)

「21 世紀のグランドデザイン」第 3 部の地域別記述における副題

- 21 世紀にふさわしい業務、生活、自然のバランスのとれた世界を代表する大都市圏域 -

首都圏整備計画

- ・ 目指すべき地域構造 - 分散型ネットワーク構造 -

「特色ある都市機能が集積する拠点的な都市の中に、業務、商業、文化、居住等の諸機能がバランス良く配置された自立性の高い地域を形成するとともに、首都圏内外の拠点が連携・交流によって機能を分担し、補完し合う地域構造」

北陸圏

(1) 人口・経済規模等

) 北陸圏 3 県は、人口は約 310 万人に過ぎないが、域内総生産約 12 兆円とアイルランドやタイ、マレーシアと同程度の経済規模を有し、複数の人口 30 万人以上の都市がある。

* 都市：金沢市(455)、富山市(421)

) 国際定期便が就航する空港、一定規模の国際海上コンテナを取扱う港湾のいずれも有しているほか、日本海側有数の産業集積を持っている。

* 空港：富山、小松

* 港湾：伏木富山

) 社会経済活動や住民意識の面で強い結びつきがみられ、県境を超える広域連携の取組実績もみられるなど、確固たるまとまりを有している。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 環日本海地域の中央に位置し今後の交通基盤整備の進展により大都市圏との時間距離が一層短縮されるといった地理的優位性と対岸地域との交流実績を活かした環日本海交流の中核拠点形成の可能性
- ・ 食文化、伝統工芸品、棚田・散居村などの農村景観、雪やしっとりした風情等の多彩な観光資源
- ・ 日本海側有数の産業集積、優れたものづくりの蓄積
- ・ コンパクトな地域にほどよく分布する魅力ある都市群と優れた居住環境を有し、全国的に見て女性・高齢者の有業者割合が相対的に高く、長寿地域
- ・ 上記の地域特性を活かした、「ロハス」(Lifestyle of health and sustainability)、「健康長寿」、「ワークライフバランス」(仕事と生活の調和)等のコンセプトの下での生活と産業の先進地域形成の可能性

(参考)

「21世紀のグランドデザイン」第3部の地域別記述における副題

- 環日本海交流の核圏域として 360 度の地域連携と国際交流が行える連携、交流の先導的地域 -

「北陸地方開発促進計画(第四次)」における副題

- 日本海国土軸の形成を先導する北陸 -

中部圏

(1) 人口・経済規模等

) 中部圏 5 県は、人口約 1,720 万人、域内総生産約 72 兆円と G 8 諸国中のカナダに次ぐ経済規模を有し、政令指定都市を含む多数の人口 30 万人以上の都市がある。

* 都市：名古屋市(2,215)、浜松市(804)、静岡市(701)、豊田市(412)、岐阜市(400)、長野市(379)、豊橋市(372)、一宮市(372)、岡崎市(355)、四日市市(304)

浜松市は 2007.4.1 に政令指定都市に移行。

) 国際定期便が就航する拠点空港と、国際海上コンテナを取扱う複数の港湾等を有することをはじめ、大規模な工業集積を抱え、さらに都市・学術集積や国際交流の面でも我が国有数の機能を持つ地域である。

* 空港：中部

* 港湾：名古屋、四日市、清水

) 社会経済活動において名古屋を中心に結びつきがみられるほか、周辺県も含めた県境を超える広域連携の取組実績もある。

(2) 圏域の特長等の例

- ・我が国の産業を支えるものづくり産業の一大集積地
- ・南米日系人をはじめ多くの外国人が生活し、多文化共生が進んでいる。また中部国際空港の開港などにより国際交流の活発化が顕著
- ・愛・地球博を契機とした環境に対するさまざまな取組を継承し、持続可能な環境共生社会形成の先導役となる可能性
- ・中部山岳等優れた自然や歴史・文化など多様な資源を活用し、日本のまんなかという地理的条件と広域交通網を活かし、他広域圏や世界各国との交流拠点として発展する可能性

(参考)

「 21 世紀のグランドデザイン」第 3 部の地域別記述における副題

- 先端的産業技術の世界的中枢としての役割を果たし、全世界を対象に多様な交流が活発に行われる地域 -

中部圏開発整備計画

・目指すべき圏域構造 - 世界に開かれた多軸連結構造の形成 -

「多様で特色ある資源や高度な産業・技術をいかした連携・交流と中部国際空港をいかした重層的な国際交流を推進することで、4 つの国土軸を連結する 6 つの圏域軸を形成し、多軸型国土形成に向けての新しい流れを創出するとともに、グローバルネットワークの一翼を担う構造」

近畿圏

(1) 人口・経済規模等

近畿圏 6 府県は、人口約 2,090 万人、域内総生産約 79 兆円と G 8 諸国中のカナダに次ぐ経済規模を有し、政令指定都市を含む多数の人口 30 万人以上の都市がある。

* 都市：大阪市(2,629)、神戸市(1,525)、京都市(1,475)、堺市(831)、東大阪市(514)、姫路市(482)、西宮市(465)、尼崎市(463)、枚方市(404)、豊中市(387)、和歌山市(376)、奈良市(370)、吹田市(354)、高槻市(352)、大津市(302)

国際定期便が就航する拠点空港と国際海上コンテナを取扱う複数の港湾を有することをはじめ、都市・産業・学術・情報・中枢管理や国際交流といった諸機能の面で首都圏に次ぐ集積を抱え、さらに長い歴史に培われた特色ある文化を有している。

* 空港：関西

* 港湾：神戸、大阪

社会経済活動において大阪を中心に強い結びつきがみられ、一つのまとまりを形成しているほか、国の地方支分部局の多くがこの 6 府県を管轄区域としている。また、周辺県も含めた府県境を超える広域連携の取組実績も多くみられる。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 中国、韓国をはじめとしたアジアとの古くから連綿と続く歴史、文化、経済、学術、人のつながり。「日本」から「世界」へ、重み・深みを増していく歴史的文化遺産が存在
- ・ 我が国有数の大学等の学術研究集積と産学連携の活発な取組
- ・ ものづくりにおいて、織、染など歴史ある貴重な伝統工芸が受け継がれるとともに、薬の製造など伝統を活かしつつ、世界に誇る先端・独自技術を有する
- ・ COP 3 や世界水フォーラムの開催等による環境意識の高まりと環境関係の国際機関・研究機関の立地から環境保全に係る先駆的取組実績を有する
- ・ 空港、港湾など都市・交通インフラが充実し、公官庁の機関や内外の防災関係機関、多くの企業本社等が立地するなど、首都圏に次ぐ中枢機能が存在
- ・ 異なる歴史、文化、産業等を有する各都市の連携と競争がさらなる魅力・活力を生み出す可能性

(参考)

「21世紀のグランドデザイン」第3部の地域別記述における副題

- 文化の香り高い、創造性に満ちた、世界に誇り得る中枢圏域 -

近畿圏整備計画

- ・ 目指すべき圏域構造 - 多核格子構造 -

「各都市・地域が、個性を育てるとともに切磋琢磨し競い合う圏域の核となるとともに、都市、地域間の重層的な連携による軸を形成することで、それぞれの都市・地域が個性を磨きつつ水平的なネットワークで結ばれる構造」

中国圏

(1) 人口・経済規模等

) 中国圏 5 県は、人口約 770 万人、域内総生産約 28 兆円と欧州の中規模諸国と同程度の人口・経済規模を有し、人口 30 万人以上の都市は広島市以下 4 市ある。

* 都市：広島市(1,154)、岡山市(675)、倉敷市(469)、福山市(419)

) 国際定期便が就航する空港、一定規模の国際海上コンテナを取扱う港湾もそれぞれ複数存在している。

* 空港：広島、岡山、美保

* 港湾：広島、水島、下関、徳山下松、岩国、福山、三田尻中関

) 社会経済活動において結びつきがみられ、国の地方支分部局の多くがこの 5 県を管轄区域としているほか、県境を超える広域連携の取組実績もある。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 東アジアをはじめ世界各国との間で展開されている平和、医療、環境等の多様な国際交流
- ・ 多くの歴史・文化遺産、瀬戸内海の高島美をはじめとする美しい景観、魅力ある農山漁村、適度な間隔で分布している個性豊かな大小様々な都市の存在とそれらを背景とした都市住民の定住・二地域居住に向けての施策や広域観光施策の展開
- ・ 産学官連携に向けての比較的活発な動き
- ・ 基礎素材型産業等の既存産業集積が新興国の経済発展等の環境変化や自らの高付加価値化努力により活性化するとともに、近年では電気機械関連産業の集積も進展
- ・ 上記の地域特性と交通基盤整備の進展を活かした、国際交流の一層の深化とさらなる経済発展、豊かな歴史・伝統文化と新しい学術文化に満ちた豊かさを実現する広域ブロック形成の可能性

(参考)

「21世紀のグランドデザイン」第3部の地域別記述における副題

- 多様な主体の参加と連携の下でグローバルな交流を進める多軸・分散型発展の先導的地域 -

「中国地方開発促進計画(第四次)」における副題

- 多軸・分散型発展を先導する中国 -

四国圏

(1) 人口・経済規模等

）四国圏 4 県は、人口は約 410 万人に過ぎないが、域内総生産約 13 兆円とアイルランドやタイ、マレーシアと同程度の経済規模を有し、複数の人口 30 万人以上の都市がある。

* 都市：松山市(515)、高松市(338)、高知市(333)

）国際定期便が就航する空港、一定規模の国際海上コンテナを取扱う港湾もそれぞれ複数存在している。

* 空港：松山、高松

* 港湾：高松、松山

）社会経済活動において結びつきがみられ、とりわけ住民意識の面で帰属意識が強いほか、国の地方支分部局の多くがこの 4 県を管轄区域としており、県境を超える広域連携の取組実績もある。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 遍路道文化により古くから育まれたもてなしの心、河川流域における多様な主体による森林保全、環境保全の取組実績等を活かした、「新たな公」による地域づくりの先進地域としての可能性
- ・ 美しい海岸線、多島美を誇る瀬戸内海、険しい地形に深く刻まれた渓谷、自然の清流等多様で特徴ある自然資源と、多彩な祭りや歴史的街並み等を豊富に持ち、各県がそれぞれに特性を有する
- ・ 製造業の既存集積が新興国の経済発展等の環境変化や自らの高付加価値化努力により活性化するとともに、農林水産業を含む地場産業から先端技術産業まで規模の大小を問わず生産シェア等が日本一・世界一の企業が四国全域に存在
- ・ 交通基盤整備の進展を活かして、「四国はひとつ」の理念の下で各県が有する地域特性を四国全体で組み合わせ、新しい四国ブランドを確立して、観光、二地域居住や産学官連携等を通じた新事業の創出・発展につなげていく可能性

(参考)

「 2 1 世紀のグランドデザイン」第 3 部の地域別記述における副題

- 国内外にわたる広域的連携型発展の先導的地域 -

「四国地方開発促進計画（第五次）」における副題

- 本四 3 架橋時代の新四国創造 -

九州圏

(1) 人口・経済規模等

) 九州圏 7 県は、人口約 1,340 万人、域内総生産約 43 兆円と欧州の中規模諸国と同程度の人口・経済規模を有し、人口 30 万人以上の都市は福岡市以下 8 市ある。

* 都市：福岡市(1,401)、北九州市(994)、熊本市(670)、鹿児島市(604)、大分市(462)、長崎市(443)、宮崎市(310)、久留米市(306)

) 国際定期便が就航する空港、一定規模の国際海上コンテナを取扱う港湾もそれぞれ複数存在している。

* 空港：福岡、新北九州、宮崎、熊本、鹿児島、大分、長崎

* 港湾：博多、北九州、伊万里、志布志、大分

) 社会経済活動の面で福岡を中心に強い結びつきがみられ、一つのまとまりを形成しているほか、国の地方支分部局もこの 7 県を管轄区域とするものが多い。また、県境を超える広域連携の取組実績も多くみられる。

(2) 圏域の特長等の例

- ・ 東アジア地域との地理的・文化的近接性と古来からの交流実績に加え、近年における輸出入等の経済面、人的・学術面での高い交流実績を活かして、アジアとの交流・連携の中核的役割の一翼を担って発展する可能性
- ・ 自動車(「カーアイランド」)、半導体(「シリコンアイランド」)などの国際競争力のある産業集積
- ・ 温暖な気候、離島・半島・内海・山地等の多様な自然と優れた景観、豊富な温泉源、史跡、伝統文化等の魅力ある観光資源と官民一体となった広域観光の取組実績
- ・ 自然条件を活用した我が国の食料・木材供給基地

(参考)

「21世紀のグランドデザイン」第3部の地域別記述における副題

- アジアと一体化して発展する九州 -

「九州地方開発促進計画(第五次)」における副題

- アジアと一体化して発展する個性ある九州 -